

めだかの学校だより

平成17年11月1日
第50号

学舎：東久留女木新田観音山
「みどりの郷キャンプ場」内
事務局：浜松市引佐町
東久留女木 472-111
TEL053-545-0381

校長訓話

第五十回校長 渡辺 三ツ子

給食のチーフをやらせて頂いて八年になると思います。

みなさんの協力と、たくさんの教えを貰ってここまでやってこれました。

感謝しております。

今回でちょうど五十回になり、町の方へ出てやることになり、チーフ



から校長に大出世しました。

学校の方針に従い、成り行きにまかせて、やらせていただくことになりました。

私は毎朝、鏡に向かって唱える言葉があります。

一、今日も健康であることに感謝します。

二、今日は良い日だ、すばらしい日だ。

三、今日もニコニコ笑顔で頑張ろう。声を出して言う事にはしています。

いいことを言い続ける事、必ず良い事が返ってきます。自分の意志を強く思い善のみ思う。不安の事は考えない。すばらしい楽しい事を思う。無理をしないで前向きに前進する



ようにしています。自分に良い事が有ったら「感謝します」。自分に嫌な事が有ったら「ありがとう」。

身内にイヤな事が起こるとイヤな事を考える。そうすると

またイヤな事が起こる、

不幸が重なる。

そこで「ありがとう」

と言って不幸の鎖を断ち切ってしまう。

「災い転じて福となす」

“ありがとう”という言葉は漢字で書くと、「有り難う」と書く。だから難が有るときに「有り難う」と言う。

これからも「全て万事、好都合に行く」と信じて・・・

(これらは勉強会で学んだ一部)

来年は今まで以上に喜んで戴ける美味しい料理を、皆さんと一緒に楽しく作って行きたいと思えます。

(自分に対する訓話)

めだかの学校伝言板

——第50回めだかの学校を開校するので出席しなさい。

校長／渡辺三ツ子

教頭／石野省三

用務員／古橋正浩

給食係／古田賢二郎・浜口弘睦・若澤明弘・藤田潤吉

藤田久枝・西川裕子・鈴木智香枝・荒木順子

水村春江(チーフ)

※今回は「サーラ」でPM6時からですので、5時に会場へお集まり下さい。

<50回学舎>「サーラ」浜松市西塚町Tel.053-465-1200

<学舎>静岡県浜松市引佐町東久留女木観音山

観音山みどりの郷キャンプ場

TELなし

開校日／平成17年12月2日(金)6:00PMより
受付／岡本卓也・徳増兼弘・大橋町代・尾上美智子
齋藤昭(後見人)

<時間割>～第50回開校を記念して
“山から降りて町で”～

～開校50回特別授業～

・学校はどうしてできたの？
・どんなテーマでやりたいの？

[提出課題]～みんなで話そう！！～

6:00 予鈴・校歌斉唱
・建学の精神唱和
・創世期のお話
・提出課題

9:00 閉校・サーラの特別ディナー

※お別れは年越しピーヒャララー

めだかの動き 泳ぎ回るめだかたち

■「そば打ち道場」の開店

そば打ちを始めてから打つ機会を求めて各町のイベントでサービスタリ、同好の士とのそば会を開いたりしています。また、そば打ちをやってみようという人がいると教えたくなります。私だけでなくそば打ちを趣味にしている人は、大概の人がそのようです。そんな「趣味そば打ち人間」の応援を得て、今年も「遠州横須賀街道ちっちゃな文化展」に一日だけ出展しました。協賛イベントとして、一般来訪者にそば打ちを体験して頂く「そば打ち道場」です。

「遠州横須賀街道ちっちゃな文化展」は、御存知の方も多いでしょうが、旧大須賀町横須賀地区の古い町並みを舞台に開かれる文化イベントです。遠州横須賀街道沿いに連なる町屋づくりの民家の外間や商店の店先を借りて、絵画や版画、陶芸、あかりアート作品などの個展が一度に五〇も六〇も開かれます。数々の実績をあげている町づくり団体の「遠州横須賀倶楽部」の主催で、毎年十月下旬に開かれ、今年で七回目になりました。ひとつひとつはちっちゃな個展でも、城下町いっばいにさまざまな展示やパフォーマンスが繰り広げられ、県西部地域随一の秋の一大文化イベントになって来ていると言っても、過言ではないでしょう。そんな文化展の開かれる町並みの東はずれの、街道から少し引込んだところにある川原町公民館を会場に、私たちの「そば道場」は毎年開いています。私の手持ちの道具や他から借りた道具を合わせて、六台の打ち場を設営して、来た方から順に体験をして頂きます。指南役は、私が言い出しつづの「遠州そば食文化研究所」の研究員です。中には、磐田市寄貫地の「花咲乃庄」の蕎麦打ち指導をされたNさん、趣味のそば打ち人ながら自宅に「みどり庵」という立派な蕎麦工房を構えているOさんなどがいます。また、多くのめだかの学校の生徒の方々にも、毎年、応援して頂いています。そして、今年は、新たに、遠州森町「夢街道匠塾」(田邊さん主催)の門下生や、掛川市前助役の小松さんの門下生である「掛川蕎麦研究会」の蕎麦打ち衆も参加してくれました。

毎年、老若男女四〇組ほどが体験される場で茹で、打ちたての自分の蕎麦を楽しんで頂いています。今年は、親子や夫婦に加えて、いつもより女性同士、お爺ちゃんおばあちゃんや孫などのグループでの体験が多く見えていました。中には毎年見えて、「あの方に教えてもらいたい。」と、指南役を指名される方もいます。そば打ちを体験される方に加えて、見学の方、試食だけを自当てに見える方など、町はずれの会場でありながら、かなり多くの方が来てくれます。終わりがくるとそば打ち指南や茹でなどでスタツプは皆くたくなってしまいい、応援してくれる方に申し訳ないで、もうやめようかといつも思ってしまう。しかし、「楽しかった、おもしろかった」とお礼を言われ、多くの方々のふれあいがあり、さらにそば打ち仲間との情報交換ができるこの機会は貴重です。また、素人集団の企画でも、この文化展の盛り上げとそば食文化の普及に少しは役立っていると思うと、また来年も何とかやれないかとお思い直します。おそらく、来年も開きますので、是非、おそらくとはなくにぎやかに覗きにきて下さい。お待ちしております。

(なんでもあり農園小作人の松)

■水攻めの中の都田川水源まつり

「新浜松市」誕生記念「県民の日」協賛、都田川水源まつりが8月20日(土)・21日(日)の両日にわたって開催されました。20日(土)は前夜祭として「岸義紘サクスフォンコンサート」薄暮を向かえた抜群の「いなさ湖畔」をバックに、岸さんの魅惑の音色に響りがちな空から、何

と「満月」が顔を出し、湖面にその姿を映し出したときは、岸さんと聴衆と自然が一体となった宇宙空間でした。皆さんにもお裾分けしてあげたい気持ちになりました。

前夜祭の余韻を思いきや、本番の翌日21日(日)、はりきつての準備も、やる気の開きまでは何とかもたらされ皆さん大あわてでした。雨間を縫っての活動開始。溝口久メダカの開会宣言。実行委員長の永田清元メダカの開会あいさつ。梅原事務局長の趣旨説明。水鳥加寿代メダカの進行でスイスイと進む。参加した親子ずれの130人あまりは、鈴木計芳メダカ率いる源流求めて歩く「水源探検隊」。笠井隊長率いる「棚田見学、水中生物探検隊」。宮分隊長率いる「いなさ湖の魚類を調べる「魚種探検隊」に分かれて出発したが、一杯の雨に水源探検隊は目的の変更。その間、服部メダカ、伊藤メダカ、徳増メダカにボランティア、数名で前に進むイカダつくりに挑戦。上嶋メダカ、加藤修メダカの事前準備のおかげで、雨にも負けずにプログラムはスイスイと。松本メダカご家族による手打ち蕎麦と渡辺メダカ、大谷メダカ調理によるカレーが次への活動エネルギーを補給してくれました。牧野メダカと鈴木真弓メダカの工夫をこらしたクラフトも登場。服部メダカの組み立てカヌーが水面を走れば、手作りイカダは力強く湖面を進みました。水攻めの中での水源まつりではあったが、当初のねらいである「いなさ湖」の現状を見て水質保護の大切さを知ってもらうことは十分に通じたことでしょう。来年はさらに工夫をこらして挑戦するぞ！

(石野省三メダカ)

■ちっちゃな文化展「横須賀街道にメダカがうようよ」

「ちっちゃな文化展」横須賀街道に先日10月21・23日「遠州横須賀街道ちっちゃな文化展」には、大勢のメダカに來ていただき、ありがとうございました。松本メダカの「そば打ち道場」は大盛況、

大入り満員状態、なれない手つきでそば打ち体験をしているのは水鳥メダカ。町を歩けば伊藤英雄メダカ、上嶋メダカ、石野メダカは風作り名人のとこで、風紋館の2階を覗けば牧野久子メダカがコーヒータム、大橋メダカにはメロンの差し入れをいただきました。みんなありがとう。遠州横須賀はメダカがうようよの3日間でした(笑)

■鬼も笑う来年の話題を2つ

1月の後半(日はまだ未定です)に未だつくりネットワークショップ交流会を小山町で開催予定です。詳細は事務局までお問合せ下さい。
2月18日(土)・19日(日)「第2回しずおか町並みゼミ」in遠州横須賀を開催。東京大学教授・西村幸夫氏を迎え、講演会・観歩記・ワークショップなどを開催予定です。詳細は遠州横須賀倶楽部・鈴木武史メダカまで。

■遠州森町発「町並みと蔵展」

「遠州の小さな町」と言われ、貴重な町並みが残っている森町。そんな町並みを保存、継承していくことと、遠州木三の里連(榊原淑友メダカ)では、静岡文化芸術大学大学院と協力して、平成17年12月3日(土)・4日(日)の2日間、遠州森町発「町並みと蔵展」を開催する。メイン会場として本町、中横町、新町の町並みと蔵を中心に山中家・大石家・旧児童会館等に貴重な歴史的資料を展示する。森町には名前のある古織物・染織家・裂織作家・陶芸家等もあり、散策の折りにそのような人を訪ねる寄り道も魅力のひとつ、また、小国神社の紅葉も見頃となる。問い合わせは榊原淑友メダカ(0538・89・7810)

■「三遠南信サミット2005 in 遠州」開催

三遠南信サミット2005 in 遠州が十一月3日(木)・4日(金)の2日間、「三遠南信・新たな時代の幕開け」夢街道いよいよ実現へ」をテーマに開催さ

れた。今年は大和市町村合併もあって三遠南信地域の市町村地図が大きく変わり、新たな取り組みが必要とされるサミットでもあった。

第一日目の三日は、三遠南信サミット記念事業として民族学者山崎一司氏の解説と遠山霜月まつり保存会の皆さんによる「霜月まつり」の上演が十四時から十六時まで、フォルテホールで行われた。千と千尋の神隠し」の発想の原点となった「神を迎えるまつりの地」めだか生もいる旧南信農村や天龍村、伝統の祭りを継続することの「苦勞を肌で感じる」ことができる、一見の価値が充分にあるもので、四日は、グラウンドホテル浜松で、十三時から十七時十五分まで全体会が行われ、第一部（十三時三〇分）から十四時三十分まで、は「三遠南信自動車道いよいよ実現へ」と三遠南信道の整備計画と進捗状況が国土交通省浜松河川国道事務所長から説明された。起点の引佐町東黒田から別所、浜川を通じて鳳来町へ抜ける工事が急ピッチで進んでいる。第一部（十四時四十分）は「災害に強い地域づくりと連携協力」の講演と三遠南信災害時相互応援協定が行政として調印された。第三部（十六時十五分）から十七時十五分は、経済界の三遠南信地域経済開発協議会による三遠南信自動車道早期開通期成同盟会設立総会が行われ、行政が主体だった早期開通期成同盟会に新たに経済界が加わったことになった。また午前十時から十二時まで行われた地域住民セッションの総括が報告された。午前十時から行われた地域・住民セッションでは準備段階から「めだか生」が大きく関わっている。十月十七日の準備会には、松田不秋、加藤修一、本島慎一郎、鈴木正士、水島加寿代、榊原幸雄ら行政セクション担当者らと企画案について意見を述べ合った。当日の円卓型の市民団体にやるフリーディスカッションにはスピーカとして松田不秋、関京子らが出席して他のスピーカや多くの参加者と語り合った。取りまとめ役の小嶋良之メダカ、山内秀彦元メダカらをお手伝いしたのも「めだか生」である。ただ

「めだか生」であったも、他の団体や役職を担っている生徒には、そちらの名称で参加していただいた。交流会も「めだか生」が光っていた。

◆人・ひと・ヒト：だより

○浜松市の古橋正浩めだか（50回勤務員）。9月23日に3068gの元気な男の子が生まれたとのこと。これから家族4人での生活が始まります。仕事に、プライベートに「めだか」に、笑顔で楽しく生きていこう!! そんな今日この頃とのこと。おめでたう!!

○袋井市の大場敬子メダカ。中国での語学留学を終えて9月2日のメダカの学校に元気な姿を見せてくれました。中国の方との通訳は任せを。今度、授業で中国語講座をやりたい。だって。

○磐田市（旧豊岡村）の伊藤英雄メダカ。お芋さんで朝日テレビに出演。「おじいと言われた」と言いがた。ニコニコ。あら、お芋さんをお菓子にしているのは浜松市（旧浜北市）の松本泰榮メダカ。まっちゃんも作るよ。美味しく見えるのはなぜでしょうね。いい顔してました。スープは浜松の割烹料理店。お芋さんも満足そうでした。

○浜松市引佐町の鈴木計芳メダカ。9月静岡市で開かれた世界緑茶協会主催の第5回O・CHAフロンティアコンテストに出品。70点の中から6位の銅賞に。その名も「ひよんどり」。お茶が機械の中で踊っているように見えたから。11月15・16日にグラウンドホテル浜松で開かれる「山のお茶フォーラム」で披露。

○磐田市の今村純子メダカ。「見附いっぶく処」の代表に。「見附宿を考える会」の活動の一つだが、空き店舗を利用して、お店「あれもやりたい、これもやりたい」でも周囲との兼ね合いもあり大変。気楽に寄れる憩いの場、寄ってみて！火曜日定休日です。

○知立市の中野昌俊メダカ。長野県天龍村に特区学校法人どんぐり向方学園を設立。フリースクールが学校法人として認可されるまで紆余曲折。良い教師にも恵

まれて、10月29日に開校記念式典。地元龍村の関福盛・京子メダカ「うれしい!!」だって。

○飯田市（旧南信農村）の玉置洋一メダカ。合併で飯田市の職員、本庁で高齢者福祉関係の担当に。来年には「地元で、水や森」に思いがある人を集めた会をつくろう」と思っている。行政マンも地域人です。よね。

○藤枝市の小嶋良之メダカ。「世界の文化遺産巡礼の旅」などボケツトの中は知識がいっぱい。講座や講演で大忙し。11月4日には三遠南信サミットで「浜松にも出かけるヨ」だって。

○浜松市の内山ゆきえメダカ。子どもたちによりよい環境を！と。環境学習も踏まえて、オーディションで応募300人の子どもから150人採用して劇団結成。本番に向けてその指導に大車輪。応援してあげて。「公演日はいつ？」教えてね。

○浜松市の溝口久メダカさん。何やっているの？「リサイクル運動市民の会の元メダカ山中恵美子さんが「溝口さん」と協働を進めるイベントやっているの。11月27日13時から静岡文化芸術大学で「の活動発表会やるから来てね。メダカの学校にも行きたいなア、でも今はダメ、その文芸大の二年生だもの。年齢は間かないで、ウー拾歳よ。ガンにも負けんわよ。

○浜松市（旧天竜市）の本島慎一郎メダカ。「やまがあぶない、森があぶない」と、奉仕活動団体「天竜川・柚人（そまびと）の会」を設立。事務局長に。現オグリーン・エコトピア・ネットワークを更に発展させようとするもの。頑張ってます。

○浜松市のフラワースタター若草の柴田芳明メダカ。10月1日に最愛の奥様とお別れ。病を持ちながらも笑顔いっぱい。智子さんだった。シンガポールの木村メダカの土は最高、苗も、いかがです、お出掛けを!

今回はこれまで。お便りください。待ってますヨ。あなたの顔が見えます。(ハラメダカ)

◆まぼろしとなった「10年誌」
開校50回記念と10年プラス3年合併号としての発行へ

第50回の「めだかの学校」の職員会議を9月14日に開いた折に、「50回記念誌を発行したい」「未定の10年誌と合併号にしたら」の意見が出て話し合った結果、「開校50回・10周年プラス3年合併号記念誌（仮称）」を発行することに決定しました。10年誌を出していただいた「私とめだかの学校」を一部直して使い、さらに10年以降に入校した生徒にも是非との声から「10年以降に入校した生徒および10年の時に書いてない生徒」にも「私とめだかの学校」と題して300字前後で書いてもらうことになりました。小見出しは加藤修一編集長がつけます。内容的には、

- 巻頭―思い出の写真集、遠足、文化祭、キャンプファイヤ、コンサート、ほんね企画主催、新聞掲載記事集、掲載雑誌など
- 発行に寄せてでは、言い出しつべや創設期メンバーの寄稿
- あゆみでは年表、授業実績、行事や出来事の13年間
- 「私とめだかの学校」寄稿集、一人300字前後
- 21世紀に残したいもの、皆で歌いたい一曲などや随時集めたアンケートや一言

●めだかの学校にエール（他県の人、外部著名人より寄稿）
●編集後記―
以上が10年誌の時にあげた企画案です。今回の合併号誌も内容的には同じ方向に進めたいと思っております。10周年記念の時には、石川静岡県知事と田中長野県知事の異色の対談や「どこにもないめだかの学校らしいシンポジウム」を計画していましたが、石川・田中両知事対談は「到底無理、アホか」なんて言われておりました。今度こそ「まぼろし」の記念誌と言われぬよう気を入れますので、ご協力のほどよろしくお願いいたします。(記念誌発行実行委員会一同)

☆祝・めだかの学校開校50回
 年月の経つのは早いもので、12月2日の「めだかの学校」は開校50回、13年目。思えば平成5年9月3日、4人のいい加減の言い出しっぺ（武井紀夫・伊藤茂男・平山豊・榎原幸雄）によって、「おもしろ人立」めだかの学校」が開校された。遊び心と好奇心と挑戦心が旺盛な4人、「学校だから」と校長・教頭・用務員の3役と給食係、まで作って。開校日はと言えば「満月の日にやろう」となのである。学舎は榎原幸雄支配人の、自然休養村「つみくさ」（引佐町奥山）。第1回開校日を満月の日に決めたいが、校長平山豊、教頭伊藤茂男、用務員武井紀夫、先生榎原幸雄、石川美知子、植田睦子、知る人ぞ知るこの顔ぶれ。お月さまも出苦かったのか、台風之余波も手伝って、山は大荒れ、真つ暗闇。「しようがない、一人でも二人でもやるか」と果敢とめていたところ世の中似た者はいるもの、57人が集まってきました。誰が誰だか分からない開校式はみな緊張気味。草笛の伴奏で校歌「めだかの学校」を合唱して他己紹介。されない人も出たりして。平山校長の訓話。「バラスさんは馬鹿だ。新聞社をやめてこんなところへ来るなんて」とは。カチカチのトッパッターバラさん。美知子さんのおいしい料理、睦ちゃんの脱線講和とまさに三人三様。給食はつみくさ料理で、杯を片手に大いに盛り上がる。みんなでお有意義してメダシメダシだった。

◆事務局だより

11月は「文化」というよりも「食欲」だねえ。カキも美味しい、ミカンも美味しい。新米も美味しい。それに英ちゃん、ネギとエビ芋、最高だねえ。でも食べ過ぎはいけませんぞ。過ぎたるは何とか

第49回の「めだかの学校」は9月2日。テーマは「去りゆく夏を惜しみながら」。古き良き時代へタイムスリップ。実直派の大谷洋介校長のもと、西川裕子教頭、小野田宗弘用務員。49回は第13期最初の授業。音楽特別授業として池田誠二郎先生による「池ちゃんのミニジャック・フライパン料理」盛り盛り。時間は一時限。手回しのゼンマイ仕掛けの3台の貴重な蓄音機のタイムマシンにのせて。お料理は、1910年、日本最古の春日八郎26歳の時の「別れの一本杉」。若き日のアームストロング、戦争へ行く前のプレスリー、美空ひばりの「お祭りマンボ」などなど西洋と混ぜての最高級料理が盛り盛り。まさに古き良き時代へタイムスリップ。惜しむらくは運搬中、貴重な2枚のレコード盤が割れてしまったことだった。つづいて大谷洋介校長の訓話。趣味の刀剣からブラジル行の話までとからあとから。小野田宗弘用務員の遠慮気味の鐘が数回。事務局からは学舎の草刈りと清掃をしてくれた生徒へのお礼と氏名発表。都田川水源まつり＆菜の花プロジェクトの活動報告など。お待ち兼ねの給食の時間は外へ出て星空のお月見ダンゴもいただいたりして。私語飲食すべて禁止の次回3役発表。次回は開講50回でもあり、「山からおりて町で記念式典？」なのか、校長は渡辺三ツ子、教頭は現職格下げの石野省三、用務員は古橋正浩。石野教頭欠席で代理人伊藤英雄メダカが辞令を受ける。お別れは「遠き山に日は落ちて」を合唱し、最後はいつものように「今日の日はさようなら」を歌い、握手しながら名残り惜しみつつ夜の幕へ...

第50回の「めだかの学校」の職員会議を9月14日、豊岡元氣村「味里」で開く。50回は大きな区切りでもあり「山から下りて町でやること」で決定。「記念式典風にやるの？」いつものように少し形態を変えたら？「設立時の経緯など話した方がいい」「会場は？」「柳通りのサーラは？」「呉竹荘の方が安いヨ」

「駐車は？」など飛びかかって。会場はサーラが特別のハカライをしてくれるとのことから「サーラ」で決定。お酒はなし、お酒を飲みたい人は個人支払いは。「50回記念誌を発行したい」「未完の10年誌と合併誌にしたら」の意見も出て、「開校50回・10周年プラス3年併号記念誌（仮称）」で決定。10年誌で出していた原稿は一部直して使って、10年以降に入校した生徒にも書いてもらうことに。詳細は再度詰めようということに。特別授業の一環でもあった、8月20日、21日に開催された都田川水源まつり＆菜の花プロジェクトの報告と、今後「菜の花プロジェクト」をどう進めていくかを話し合う。「先ずは草刈りと種子播きしよう」と言うことから、9月19日に決める。のもと地元の人に加わって15名ほどで実施)。10月10日体育の日に、第2回目の菜の花プロジェクトの草刈りと柴大根の種子播きに合わせて、2回目の職員会議を行う。「50回の節目でもあり、生徒ひとりひとりがどんな思いでいるのか、どんなテーマでやりたいのか」50文字で書いてもらったら「それを当日配って話し合おう」ということ。出欠席のハガキを同封することによって一石五鳥か。50回に花を添えたいね、と伊藤八右メダカと鈴木武史メダカに祭囃子をやってもらうことに決めました。（おら、知らないといハバラメダカ）。※9月19日に播いた菜の花、芽が出ていました。春には菜の花コンサートができますヨ。虫の二飯になつていなければ。『今回こそは』と叱咤したのに、こうも原稿をまとめられないのは、『うん？ネズミに噛まれたところから脳にバイキンが：そんなア』と思うバラメダカを支え、お手伝いしていただきますした石野省三メダカ、伊藤英雄メダカ、本島慎一郎メダカ、鈴木正士メダカ、鈴木武史メダカ、溝口久メダカ、照井易子メダカ、エヌビーネットの伊藤多恵子さん、ありがとうございました。感謝です。

ん？ネズミに噛まれたところから脳にバイキンが：そんなア』と思うバラメダカを支え、お手伝いしていただきますした石野省三メダカ、伊藤英雄メダカ、本島慎一郎メダカ、鈴木正士メダカ、鈴木武史メダカ、溝口久メダカ、照井易子メダカ、エヌビーネットの伊藤多恵子さん、ありがとうございました。感謝です。

■第十三期の「めだかの学校」の継続手続きをしています。
 第十三期は平成17年9月1日から平成18年8月31日までです。多くの生徒は継続手続きを済ませていますが、まだ済ませていない生徒がいます。今回の発送をもって自動退学となります。ご了承ください。入学希望者がいましたらご連絡ください。本人に申込書と資料をお送りします。
 (事務局・榎原幸雄メダカ)

◆めだかのたよりの原稿を！
 情報ください。地域のイベント、あなたの活動を！待ってます。次回発行日は2月1日です。1月20日までには郵便かFAXで。事務局(FAX 053・545・0381)、メールの方は、照井易子あて Eメール/tezu@ahnet.co.jp
 メール送信の方は、割付の関係もありますので、事務局に「一報を！」よろしく願います。

めだかの学校事務局
 〒431-2531
 静岡県浜松市引佐町東久留 女木47-111
 榎原幸雄

「リンデンバウム」内
 ※学舎「みどりの郷」は何もありません。連絡・お問い合わせは「事務局」まで。